第2回CCDO雑誌編纂プロジェクト（ブレスト）会議

日時／2020年3月9日（月曜日）　19：00〜20：30

会場／大須バッファロー3階・会議室

出席／小幡真也、鯉江康平、福永祐三、広瀬達也、佐藤宏、池田豊隆、安藤誠一郎

欠席／矢部達也、向井真人、大塚健太、中森浩二、岡田真由美、岩佐泰樹、和田眞爾、井関徹、森本健、西村知弘

【小幡委員長】

ブレストに入る前に参考資料が紹介された。（池田氏も参考資料を持参した。）

参加者全員が積極的に意見交換され、具体案の方向性が見えた。

★ＣＣＤＯのコミュニケーションツールを開発すること！

もちろん、内外に向けて、継続的に使えること！

数年に一発の花火ではなく、年二回とか定期運用がカギ！

＞CCDOで仕事をまわす→在宅/OneDrive/Skype　かかわりの多様性。

＞手弁当ではなく、適度な活動費→広告1口数千円/クラファンなどの資金あつめ

＞余らない残さないメディア→ネタを厳選する

＞冊子スタンド/ネット→皆に届くしくみを使う（ゴミにしない）

＞地元企業が喜ぶ→地方創生

などなどの切り口で運営する！

【福永祐三の提案】

５年後の名古屋市の小学校全てに

　小学５年生の教材としてCCDOブランドの「デザインをやさしく教える」

　冊子かコンテンツかが配布される。

意義：CCDOの会員全てが次世代の子供たちのデザイン教育に興味を持っている。特にデザインが生活のあらゆることに関係していることをわかりやすく伝えておきたい。

・公益事業としてプライドを持ってCCDOが一つになれる。

　 　　・あらゆるデザイン領域が関与できる。

現実性：公益事業として市から助成金をもらえる。

　　　・企業も次世代の子供たちのための事業であるし、未来のステークホルダーの育成でもあるのでスポンサーになる理由がある。

　　　・CCDO には、あらゆるデザインを解説できる人材に溢れている。

　　　・一気に作るのでなく、一年に一回ずついろいろな領域を順番にまとめていき５年で形にする。

アクション

　・毎年一回のペースで良いので特定のデザイン分野をいくつか選んで毎年違うデザイン解説コンテンツをまとめていく。それを５年後に集約する。

　　　（最初の３０周年版はデザイン全体の話にフォーカスして、デザインと生活の関わりを優しく解説するコンテンツ）

・どの段階で市・県に補助金の要請をするか、企業にスポンサーをお願いするか検討する。

　・このようなコンセプトにした場合にどのようなメディアコンテンツにするべきか、子供に理解してもらうにはどうすれば良いかを若いメンバー中心に検討チームを募集する。

教材コンテンツにいつもCCDOロゴがついて自然に子供達が覚えてくれることで、まずは名古屋や愛知でCCDOブランドを作る。

【鯉江康平】

CAC中部広告制作協会は４月新年度より「育成サポート委員会」を施設して活動を開始しますから同調できると思います。

インテリア産業協会では、各地区の図書館で講師を派遣して勉強会を開催している。（こちらも連携可能と思います。）

教材的な冊子＆ネット「デザインをやさしく教える」キーワードも良いと思いますが、
こども達が喜ぶ（参加）ためには、ゲーム性やクイズ性が必要と思います。
「遊びと学びの中からデザイン探検しよう！」

広瀬さん、良いフレーズを考えてくださいね！